

令和 4 年 9 月 30 日現在

機関番号：62615

研究種目：若手研究

研究期間：2020～2021

課題番号：20K20139

研究課題名（和文）オープンアクセス進捗度の因果分析

研究課題名（英文）Causal Analysis of Open Access Progress

研究代表者

河合 将志（Kawai, Masashi）

国立情報学研究所・オープンサイエンス基盤研究センター・特任研究員

研究者番号：10856090

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,500,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、機関リポジトリによるオープンアクセスについての定量的な実証に加え、実証にもとづく機関リポジトリの機能開発をおこなった。初年度には機関リポジトリにおける学術雑誌論文の件数と図書館員によるオープンアクセス推進活動の因果関係についての定量的な実証に取り組み、結果を論文にまとめた。最終年度には機能開発に取り組み、オープンアクセス推進活動に関するデータを自動収集するシステムをJAIRO Cloudに付加した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本における機関リポジトリによるオープンアクセスは低迷した状態にあるが、本研究の成果は、こうした現状の改善に寄与するものといえる。定量的な実証は、機関リポジトリにおける学術雑誌論文の件数の増加につながるオープンアクセス推進活動を示すものであり、機関リポジトリコミュニティの活動指針となり得る。開発したJAIRO Cloudの機能は、推進活動に関するデータを自動収集するものであることから、収集されたデータを利用した実証の精緻化と、精緻化された実証にもとづく新たな活動指針の提示を可能にするが見込まれる。

研究成果の概要（英文）：In this study, a quantitative analysis about open access by institutional repository and system development based on the analysis were conducted. In the first year, the quantitative analysis of the causal relationship between the number of journal articles in institutional repositories and open access promotion activities by librarians was conducted and its result was published as a journal article. In the final year, the system for JAIR Cloud that automatically collects data on open access promotion activities was developed.

研究分野：人文社会情報学 図書館情報学

キーワード：オープンアクセス 機関リポジトリ Open Access Institutional Repository

様式 C-19、F-19-1、Z-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

日本は世界でも有数の機関リポジトリ保有国であるが、機関リポジトリによるオープンアクセスの進捗度には機関の間で大きなばらつきが見られる（図1）。こうした状況を改善するための取組を検討するにあたっては、まずこの進捗度のばらつきを生み出している要因を体系的に特定する必要があるが、そのような試みはこれまでなされてこなかった。

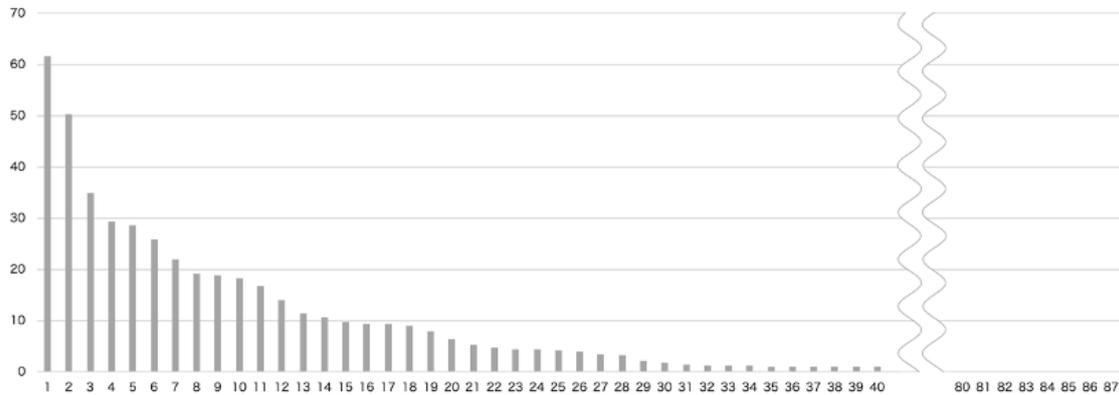


図1 機関別進捗度

2. 研究の目的

本研究では、進捗度のばらつきを生み出している要因として図書館によるオープンアクセス推進活動に着目し（表1）、推進活動と進捗度の因果関係の定量的な実証を初年度の目的とした。また、推進活動に関するデータの自動収集を可能にする機関リポジトリの機能の開発を最終年度の目的とした。

表1 推進活動一覧

オープンアクセス推進活動	
学術雑誌論文提供依頼	IR担当職員数
セルフアーカイブ	JAIRO Cloud
ダウンロード件数通知	OA委員会
APC支援	OAワークショップ
IR委員会	OA広報資料
IR業務外部委託	OA説明会
IR業務規定	OA方針
IR専用定常予算	

3. 研究の方法

定量的な実証については、学術機関リポジトリデータベースや Web of Science の情報をデータとし、機械学習アルゴリズムを手法とすることにより行なった。機能開発については、多くの機関が採用する JAIRO Cloud にメモ機能を付加することで（図2）、推進活動に関するデータの自動収集を可能にした。

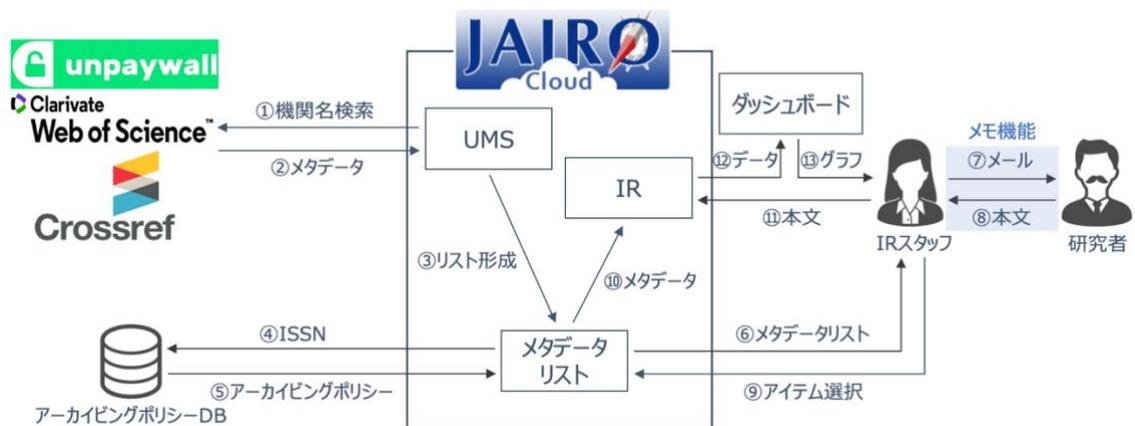


図2 メモ機能の位置付け

4. 研究成果

初年度の成果としては、情報知識学会誌に掲載された定量的な実証についての論文(機関リポジトリによるオープンアクセス進捗率の因果分析)が挙げられる。最終年度の成果としては、JAIRO Cloud のメモ機能の開発がある。ただし、メモ機能の運用には至っていない。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 河合将志 尾城孝一 前田隼 西澤正己 山地一禎	4. 巻 31
2. 論文標題 機関リポジトリによるオープンアクセス進捗率の因果分析	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 情報知識学会誌	6. 最初と最後の頁 20 30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.2964/jsik_2021_015	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------